

ZE010318, 2001年3月24日

Resent-From:weekly@zenit.org

From:Zenit News Agency<infoenglish@zenit.org>

ソウル、韓国、2001年3月22日 (ZENIT.org-FIDES)

韓国はアジアにおいてカトリック信者の数ではフィリピンとインドに次ぐ三番目の国であり、世界で最も成人洗礼の多い国である。

毎年15万人の成人が教会に入っている。1984年の教皇ヨハネ・パウロ2世の訪問以来、カトリックのブームのようなものが起り、現在では信者の数は総人口4600万人の中で約8.3%になる395万人となっている。

この国の教会はきわめて顕著な布教精神を示しており、旧ソビエト諸国や中国を含めた他のアジア諸国、アフリカ、南アメリカに宣教師を派遣している。フランスの小教区で主任司祭の役割を果たす韓国人司祭もいる。

韓国の教会は、北朝鮮との和解のプロジェクトにおいて触媒の働きをしている。昨年ノーベル平和賞受賞者であり、同国における民主主義の著名な擁護者である金大中大統領は、この役職を占めた最初のカトリック信者である。

朝鮮半島の福音化は、18世紀の末に北京から持ち込まれたカトリックの書物に触れキリストを信じた儒学者によって始められた。教皇グレゴリウス16世は1831年韓国を使徒総代理管区とした。激しい迫害が始まり、それによって信者の約半数が殉教したが、その後1884年信仰の自由が認められた。宣教師の入国が許されたのは1875年である。

現在韓国の教会は2927人の司祭、1715人の神学生(大神学校)、1170人の修道士、8551人の修道女、1092の小教区、12243人の洗礼志願者、そして420人の外国人宣教師がいる。